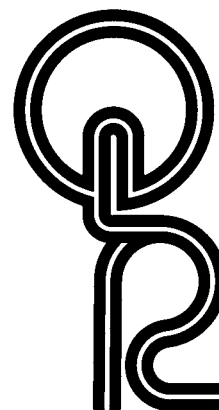


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 21 No.3, 2014



フィリピン、サン・パブロ市付近のマール（爆裂火口湖）での音波探査の調査風景。ティラピア養殖のために現地人が使っているバンブーボート（竹で作られた簡易筏）に各種装置を艀装しての探査。（2014年2月、撮影者：山田和芳）

---

---

Vol. 21 No. 3

June 1, 2014

---

---

2014年大会案内（第3報）・・・2  
学会賞・学術賞講演会のお知らせ・・・6  
INQUA 組織委員会からのお知らせ・・・6

研究集会参加報告・・・7  
学生会員継続届提出のお願い・・・7  
会員消息・・・8

## ◆日本第四紀学会 2013年大会案内(第3報)

### 1. 日時・開催場所

2014年9月5日(金)～9月9日(火)  
東京大学柏キャンパス(柏市柏の葉5-1-5)

### 2. 日程

9月5日(金) プレ巡検  
9月6日(土) シンポジウム・一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会  
9月7日(日) シンポジウム・一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・懇親会  
9月8日(月) シンポジウム・一般研究発表(口頭およびポスター)  
9月9日(火) ポスト巡検

### 3. 発表の申し込み

#### 発表者の資格と発表件数の制限

2014年大会においては来年のINQUA名古屋大会を念頭において、INQUA commission ごとにシンポジウムを開きます。発表者は従来の一般発表のほかにシンポジウムを発表の場を選ぶことができ、共に口頭発表とポスター発表があります。招待講演者を除き、筆頭発表者は日本第四紀学会会員である必要がありますので、ご注意ください。口頭発表は原則1人1件、ポスター発表についてはその制限を設けません。多数の講演に対応できるよう会場を準備しますが、シンポジウム発表に申し込まれる場合には、シンポジウムのポスター発表、もしくは、一般口頭発表に変更させて頂く場合があることをご了承ください。なお、本会会員で大会時39歳以下の方は、発表の場所や様式にかかわらず若手発表賞にエントリーすることができます。エントリー希望の方は発表申込書にご記入ください。

#### 発表申込書と講演要旨の送付方法および締切り：2014年6月30日(月)

発表を希望される方は、発表申込書と講演要旨を電子メールに添付してお申し込みください。発表タイトルごとにひとつの電子メールとし、メールの件名は必ず「一般発表申込：筆頭発表者名(2件申し込む場合はA、Bを末尾につけて両者を区別して下さい)」として下さい。送付先のメールアドレスは、jaqua2014(at)gmail.com(送付の際には(at)を@に変えてください)です。発表申込書と講演要旨のテンプレートは、それぞれ学会ウェブサイト(<http://quaternary.jp/meeting/index.html#2014>)からダウンロードしてご使用ください。発表申込書については、本通信5ページに見本を示します。発表者は発表場所(一般発表あるいは各シンポジウム)と様式(口頭あるいはポスター)のご希望を申請ください。講演要旨の原稿は、シンポジウム・一般発表ともにA4サイズ1ページとし、印刷後はB5に縮小されます。詳しくは、講演要旨のテンプレート中に記載されている事項を良くお読みください。申し込み締切りは2014年6月30日(月)です。

### 4. 参加費・懇親会申し込み等

- 大会参加費：2,000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払い下さい。  
ただし、大学院生の会員は1,500円、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。
- 講演要旨集：予定価格2,000円  
(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合があります)
- 会期中の昼食：大学生協が利用できます。
- 懇親会に参加される方は申し込みをお願いいたします。  
日 時：9月7日(日) 18:00～(予定)  
会 場：東京大学柏キャンパス内「プラザ憩い」  
参加費：一般5,000円、学生2,500円(予定)  
予 約：8月18日(月)までに e-mail：jaqua2014(at)gmail.com で大会実行委員会(懇親会担当)・小口までご連絡下さい。

### 5. シンポジウム

2014年大会は、以下の5つのシンポジウムの開催が決定しています。いずれのシンポジウムも招待講演と一般発表を予定しております。各シンポジウムの主旨については第四紀通信の前月号(<http://quaternary.jp/report/QRNL2102.pdf>)の2～3ページをご参照ください。

#### シンポジウム I 「下部-中部更新統境界 GSSP (仮題)」

世話人：岡田 誠(茨城大学)、風岡 修(千葉県地質環境研)、三田村宗樹(大阪市立大学)

**シンポジウムⅡ「更新世・完新世の資源環境と人類」**

世話人：小野 昭（明治大学）、工藤雄一郎（歴博）、辻 誠一郎（東京大学）

**シンポジウムⅢ「プレート沈み込み境界における古地震・津波研究」**

世話人：藤原 治（産総研）、吾妻 崇（産総研）

**シンポジウムⅣ「東アジア～北西太平洋域における第四紀の気候と環境変動」**

世話人：公文富士夫（信州大学）、竹村恵二（京都大学）、井内美郎（早稲田大学）、入野智久（北海道大学）、  
第四紀学会古気候変動研究委員会

**シンポジウムⅤ「第四紀の海水準変動と地球表層プロセス」**

世話人：横山祐典（東京大学）、宮入陽介（東京大学）、川幡穂高（東京大学）、小口 高（東京大学）、  
須貝俊彦（東京大学）

**6. 巡検の概要**

本大会はプレ巡検とポスト巡検の二つを企画しています。

・申し込み方法：参加希望者は、e-mailにて、希望の巡検名、氏名・所属・連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）を明記し、jaqua2014(at)gmail.com までご連絡ください。メールタイトルは「巡検参加希望\_氏名」としてください。

・申し込み締め切り：7月31日（木）

**◆プレ巡検「更新世前期～中期境界の国際モードポイント候補地の巡検－房総半島養老川(千葉セクション)－」**

・日程：2014年9月5日（金）

・案内者：風岡 修、岡田 誠、他

・参加費：検討中（弁当・水等は各自持参）

・出発地／解散地：JR 五井駅（移動はマイクロバス）

・巡検ルート：10:00 五井駅出発→11:00 国際モードポイント候補地（市原市田淵、国本層 Byk zone と GSSP 候補地周辺）→12:30 昼食（田淵会館の使用予定（交渉中））→13:30 市原市折津（養老川に架かる橋より梅ヶ瀬層上部の遠望）→14:00 養老溪谷（大多喜町葛藤、大田台層上部～梅ヶ瀬層下部）→15:30 粟又の滝（大多喜町粟又、黄和田層中部 Kd18 付近）→17:30～18:00 JR 五井駅着

・実施定員：最大25名（最少催行人数は15名）

天候および見学先の事情等により変更になることがあります。

**◆ポスト巡検「第四紀年代測定等最新施設見学ツアー」**

・日程：2014年9月9日（火）

・案内者：横山祐典、田村 亨、他

・参加費：検討中（昼食は各自）

・出発地／解散地：東大柏キャンパス（移動はマイクロバスを予定）

・巡検ルート：

10:00 大気海洋研究所 1階エントランス

10:00-11:40 シングルステージ加速器質量分析装置、レーザーアブレーション高分解能 ICP 質量分析装置、クリーンルーム、飼育室見学など

11:40-12:50 昼食（各自。平日なので学食は開いています）

12:50 つくばへバスで出発

14:00 産総研第七事業所受付到着

14:10-15:00 施設紹介・ルミネッセンス年代測定概要説明

15:00-16:30 ルミネッセンス実験室見学、実験室の見学終了後、地質標本館の見学（各自）

16:30 地質標本館入り口前集合、バス搭乗

17:30～18:00 東大柏キャンパス着後、TX 柏の葉キャンパス駅（終点）

・定員：最大定員30名（予定）

**7. 重要締切日程**

・一般発表申し込み締め切り：6月30日（月）、上記3参照

・巡検申し込み締め切り：7月31日（木）、上記6参照

・懇親会の予約申し込み締め切り：8月18日（月）、上記4参照

**8. 大会実行委員会**

実行委員会委員長 辻 誠一郎

連絡先：2014年大会実行委員会事務局事務担当（須貝俊彦）

〒277-8563 千葉県柏市柏の葉5-1-5

東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系

Tel/Fax 04-7136-4771

E-mail jaqua2014(at)gmail.com

## 会場へのアクセス

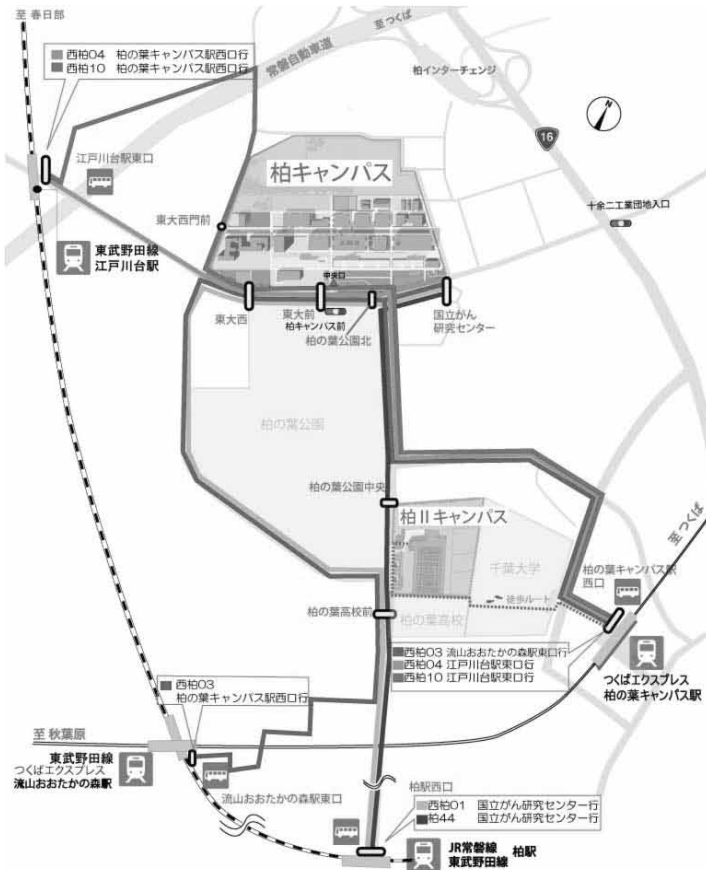
大会会場までのアクセスと会場内の建物配置に関しては、下記をご参照ください。

<http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/download/KashiwaCampusGuideMap.pdf>

最寄り駅からのアクセス ([http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/tpp40\\_10.html](http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/tpp40_10.html))

キャンパス案内図 (<http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp/tpp40.html>)

### 【アクセスマップ】



○宿泊  
 宿泊施設はJR柏駅周辺に多数ございます。会場最寄駅のつくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅前には、三井ガーデンホテル柏の葉(7月8日オープン；開業記念価格予約受付中、<http://www.gardenhotels.co.jp/kashiwanoha/>)ががございます。各自ご予約ください。

### 【キャンパスマップ】





### ◆日本第四紀学会 2013 年 学会賞学術賞受賞者講演会のお知らせ

期日：2014 年 6 月 7 日（土）14:00～17:00（参加費無料、申し込み不要）

会場：名古屋大学大学院環境学研究科環境総合館 レクチャーホール

（会場までの道順は <http://www.env.nagoya-u.ac.jp/contact/map.html> をご参照ください）

後援：名古屋大学大学院環境学研究科

13:30～受付開始

14:00～14:05 開会挨拶

14:05～14:50 学術賞受賞講演 中川 毅会員

「年縞研究の 20 年：より正確な時計を求めて」

（受賞件名：後期更新世における古気候学、年代学の高度化への貢献）

14:50～15:35 学術賞受賞講演 久保純子会員

「河川と平野の地形からみえること」

（受賞件名：河川地形環境の変遷に関する研究とその多面的な応用）

15:45～16:30 学会賞受賞講演 海津正倫会員

「沖積低地の過去を知る」

（受賞件名：沖積低地と自然環境変化に関する一連の研究）

16:30～16:55 質疑応答

17:00 閉会

### ◆ INQUA 組織委員会からのお知らせ

INQUA 名古屋大会のセッションを公募しておりましたが、お陰さまで 131 件の申請がありました。ご協力ありがとうございました。このセッション数は前回のベルン大会のセッション数と比べて多く、類似したセッションもあることから、現在 Allan Chivas INQUA 前会長を委員長とする科学委員会で調整中です。

大会の準備では、2014 年 7 月から論文投稿ができるように現在システムを JTB-COM と共同で作成準備中です。順調に進捗していることから予定通り開始できるかと思えます。論文投稿は、口頭発表とポスター発表共に、2014 年 12 月 20 日が締め切りになります。また、参加補助の申請も、同じ期日になります。投稿できる期間は 5 ヶ月ほどしかありませんので、ご注意ください。皆さんからのたくさんの発表と参加登録をお待ちしています。

募金に関しては、前号の通信で一部修正を記載致しましたが、JNTO を経由する募金の書類や募金に関する情報を INQUA の日本語のページに掲載致しました。提出する書類もダウンロード可能です。  
<http://inqua2015.jp/j/support/donation.htm>

大会を成功させるためにも、またアジアを中心とした発展途上国からの参加や若手研究者へ参加を支援するためにも、是非ご協力頂けますようお願い申し上げます。

今後とも、引き続きご協力とご支援をお願い申し上げます。

## ◆「猪苗代湖の湖底堆積物コア (INW2012) からみた過去 2000 年間の湖環境変遷」に参加して

渡邊 慶 (信州大学大学院理工学系研究科 1 年生)

2014 年 3 月 7 日、滋賀県琵琶湖博物館で猪苗代湖湖底ボーリングコアについての研究集会が行われた。この湖底堆積物ボーリングコア (INW2012) は 2012 年 9 ~ 11 月に福島大学の磐梯一朝日遷移プロジェクトの一環として掘削されたもので、猪苗代湖心部では初めて基盤まで到達した長いコア試料である。また、近接する 2 つの掘削の採取深度をずらすことで連続性の保証された複合コア試料が得られている (複合深度 2817cm)。

本研究集会の目的は、INW2012 コアについて、とくに最上部の最近 2000 年間についての結果を報告することである。福島大学、早稲田大学、信州大学、大阪市立大学、琵琶湖博物館などの研究者が分担して、異なる解析が同時進行で行われている。具体的には、福島大学では、コア試料の処理や岩相記載、珪藻化石の分析および化学分析が行われ、早稲田大学では粒度分析、信州大学では有機炭素含有率、大阪市立大学では微粒炭、琵琶湖博物館では花粉化石の分析が行われている。今回の研究集会では、各々の研究機関で行われた 1 年間の解析結果が報告された。

本研究集会では、INW2012 コアでも、2000 年前から現在にかけての分析を重点的に比較の対象とした。化学分析からは暗色の層に鉄と硫黄が多く含まれていることが分かり、粒度分析からは猪苗代湖では非常に多くのイベント層 (タービダイト層や洪水層) などが含まれているなど、各方面で猪苗代湖のコアの解析が進んでいる。

私の研究ではこのコアを対象として、4.8 万年間の有機炭素量の変動を明らかにした。猪苗代湖



猪苗代湖研究集会の様子

の有機炭素量は、他の湖の有機炭素の変動やグリーンランド氷床の酸素同位体比変動と同調することから気温に支配されやすいことが示唆される。また、最上部の最近の 2000 年間を他の指標と比較することで、猪苗代湖における特徴的なラミナの形成プロセスの解明に貢献することができるかもしれない。

猪苗代湖には、形成初期から現在にいたる変遷過程でいまだに分からないことが多くあり、湖底堆積物に関しても、ラミナの成因など謎は多い。今後の 1 年で多方面での分析が進み、全層準に対しても解析が進めば、猪苗代湖の環境変遷史がより詳細に解明されるであろう。なお、参加者は 23 名であった。

## ◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000 年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2014 年度 (2014 年 8 月 1 日 ~ 2015 年 7 月 31 日) を学生会員として継続希望される方は、A4 判の用紙 (様式自由・ワープロ使用) に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを 2014 年 7 月 31 日 (木) までに日本第四紀学会事務局まで郵送して下さい。本届が提出されない場合は、2014 年度第 1 回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

なお、2013 年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また、日本学術振興会特別研究員 (PD) や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号  
新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com

TEL : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来上がった段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ  
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX : 029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176